

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウメイジョウ メイジョウガク 学校法人名城大学									
フリガナ大学の名称	メイジョウガクダク 名城大学大学院 (The University of Meijo Graduate School)									
大学本部の位置	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地									
大学の目的	本大学院は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、もって文化の発展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	人間に関するテーマを探求・展開できる研究能力とともに、総合的で柔軟な判断力、多角的・複雑化した社会で求められるコミュニケーション能力、高い公共性と倫理性を備えた人材の養成を目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 人間学部 人間学科	
	人間学研究科 (Graduate School of Human Studies)	年	人	年次人	人		年 月 第 年次			
	人間学専攻 (Course of Human Studies)	2	8		16	修士 (人間学)	平成23年4月 第1年次	愛知県名古屋市天白区 塩釜口一丁目501番地		
	計		8		16					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	平成23年4月名称変更予定 理工学部 交通科学科 交通機械工学科									
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
			講義	演習	実習	計				
	人間学研究科 人間学専攻		17科目	4科目	2科目	23科目	30単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	人間学研究科 人間学専攻(修士課程)		人	人	人	人	人	人	人	
			10	3	0	0	13	0	4	
			(10)	(3)	(0)	(0)	(13)	(0)	(4)	
	計		10	3	0	0	13	0	4	
			(10)	(3)	(0)	(0)	(13)	(0)	(4)	
	既設分	法学研究科	法律学専攻 (修士課程)	17	10	0	0	27	0	7
				(17)	(10)	(0)	(0)	(27)	(0)	(7)
			法律学専攻 (博士後期課程)	17	0	0	0	17	0	0
		(17)	(0)	(0)	(0)	(17)	(0)	(0)		
経営学研究科		経営学専攻 (修士課程)	20	4	0	1	25	0	22	
			(20)	(4)	(0)	(1)	(25)	(0)	(22)	
	経営学専攻 (博士後期課程)	19	2	0	0	21	0	0		
	(19)	(2)	(0)	(0)	(21)	(0)	(0)			
経済学研究科	経済学専攻 (修士課程)	16	8	0	0	24	0	11		
		(16)	(8)	(0)	(0)	(24)	(0)	(11)		
	経済学専攻 (博士後期課程)	14	0	0	0	14	0	0		
	(14)	(0)	(0)	(0)	(14)	(0)	(0)			

教員組織の概要	既設分	理工学研究科	数学専攻 (博士前期課程) (博士後期課程)	10 (10) 10 (10)	4 (4) 0 (0)	1 (1) 0 (0)	1 (1) 0 (0)	16 (16) 10 (10)	0 (0) 0 (0)	4 (4) 0 (0)
			情報工学専攻 (修士課程)	12 (12)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	0 (0)
			電気電子工学専攻 (博士前期課程)	12 (12)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	0 (0)
			材料機能工学専攻 (修士課程)	11 (11)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	1 (1)
			機械システム工学専攻 (修士課程)	12 (12)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	5 (5)
			交通科学専攻 (修士課程)	10 (10)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	2 (2)
			建設システム工学専攻 (修士課程)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	1 (1)
			環境創造学専攻 (修士課程)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	1 (1)
			建築学専攻 (修士課程)	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)
			電気電子・情報・材料工学専攻 (博士後期課程)	32 (32)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	38 (38)	0 (0)	0 (0)
			機械工学専攻 (博士後期課程)	23 (23)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	0 (0)
			社会環境デザイン工学専攻 (博士後期課程)	21 (21)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	0 (0)
		農学研究科	農学専攻 (修士課程) (博士後期課程)	18 (18) 18 (18)	13 (13) 0 (0)	3 (3) 0 (0)	4 (4) 0 (0)	38 (38) 18 (18)	0 (0) 0 (0)	0 (0) 0 (0)
			薬学研究科	薬学専攻 (博士後期課程)	17 (17)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)
		都市情報学研究科	都市情報学専攻 (修士課程) (博士後期課程)	18 (18) 14 (14)	6 (6) 0 (0)	0 (0) 0 (0)	0 (0) 0 (0)	24 (24) 14 (14)	0 (0) 0 (0)	0 (0) 0 (0)
総合学術研究科	総合学術専攻 (博士前期課程) (博士後期課程)		11 (11) 9 (9)	3 (3) 1 (1)	0 (0) 0 (0)	0 (0) 0 (0)	14 (14) 10 (10)	0 (0) 0 (0)	4 (4) 0 (0)	
	大学・学校づくり研究科	大学・学校づくり専攻 (修士課程)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	4 (4)	
法務研究科	法務専攻 (専門職学位課程)	18 (18)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	21 (21)		
計		408 (408)	124 (124)	4 (4)	14 (14)	550 (550)	0 (0)	86 (86)		
合計		418 (418)	127 (127)	4 (4)	14 (14)	563 (563)	0 (0)	90 (90)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体	
	事 務 職 員		人		人		人			
			194 (189)		72 (77)		266 (266)			
	技 術 職 員		8 (8)		3 (3)		11 (11)			
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)		0 (0)		6 (6)			
そ の 他 の 職 員		1 (1)		8 (8)		9 (9)				

		計	209 (204)	83 (88)	292 (292)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用地 【校舎敷地】 貸主：蒲郡市 借用期間 平成16年6月1日か ら25年10か月間 200.00[m ²]				
	校舎敷地	205,470.26 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	205,470.26 m ²					
	運動場用地	174,372.29 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	174,372.29 m ²					
	小 計	379,842.55 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	379,842.55 m ²					
	そ の 他	156,935.74 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	156,935.74 m ²					
	合 計	536,778.29 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	536,778.29 m ²					
	校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		197,313.51 m ² (178,268.74 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	197,313.51 m ² (178,268.74 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	141 室	107 室	135 室	26 室 (補助職員 3 人)	5 室 (補助職員 0 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		申請研究科全体				
		人間学研究科		13 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 [うち外国書] 冊	学術雑誌 [うち外国書] 種	電子ジャーナル [うち外国書]	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分 図書 [700,571] 学術雑誌 [307,490] 電子ジャーナル [30,128] 視聴覚資料 [19,922] 機械・器具 [2,551]		
	人間学研究科	514,191[128,700] (513,991[128,500])	1,327 [282] (1,325 [280])	942 [942] (940 [940])	9,961 (9,961)	41 (35)	0 (0)			
	計	514,191[128,700] (513,991[128,500])	1,327 [282] (1,325 [280])	942 [942] (940 [940])	9,961 (9,961)	41 (35)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
		13,513.73 m ²		1,528 席		1,080,000 冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		8,023.02 m ²		テニスコート		プール				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請研究科全体
		教員1人当り研究費等		480千円	480千円					
		共同研究費等		2,120千円	2,120千円					
		図書購入費	0円	3,000千円	3,000千円					
	設備購入費	0円	1,200千円	1,200千円						
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		790千円	660千円	千円	千円	千円	千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							
既設大学等の状況	大学の名称		名城大学大学院							〔基礎学部〕 法学部 法学科 応用実務法学科
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	大学院法学研究科 法律学専攻								愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地	
	修士課程	2	15		30	修士(法学)	0.80	昭和42年度		
	博士後期課程	3	8		24	博士(法学)	0.24	昭和44年度		

既設大学等の状況	大学院経営学研究科 経営学専攻									愛知県名古屋市 市天白区塩釜 口一丁目 501 番地	〔基礎学部〕 経営学部 経営学科 国際経営学科
	修士課程	2	30	60	修士(経営学)	0.80	平成 13 年度				
	博士後期課程	3	3	9	博士(経営学)	1.22	平成 15 年度				
	大学院経済学研究科 経済学専攻										〔基礎学部〕 経済学部 経済学科 産業社会学科
	修士課程	2	10	20	修士(経済学)	0.95	平成 12 年度				
	博士後期課程	3	3	9	博士(経済学)	0.44	平成 14 年度				
	大学院理工学研究科 数学専攻										〔基礎学部〕 理工学部 数学科 情報工学科 電気電子工学科 材料機能工学科 機械システム工学科 交通科学科 建設システム工学科 環境創造学科 建築学科
	博士前期課程	2	8	16	修士(理学)	1.12	平成 14 年度				
	博士後期課程	3	2	6	博士(理学)	0.50	平成 7 年度				
	情報工学専攻										
	修士課程	2	30	60	修士(工学)	1.26	平成 14 年度				
	電気電子工学専攻										
	博士前期課程	2	20	40	修士(工学)	1.27	平成 14 年度				
	材料機能工学専攻										
	修士課程	2	30	60	修士(工学)	1.45	平成 14 年度				
	機械システム工学専攻										
	修士課程	2	20	40	修士(工学)	1.90	平成 14 年度				
	交通科学専攻										
	修士課程	2	16	32	修士(工学)	1.46	平成 14 年度				
	建設システム工学専攻										
修士課程	2	20	40	修士(工学)	0.55	平成 14 年度					
環境創造学専攻											
修士課程	2	10	20	修士(工学)	0.55	平成 14 年度					
建築学専攻											
修士課程	2	16	32	修士(工学)	1.06	平成 14 年度					
電気電子・情報・材料工学専攻											
博士後期課程	3	10	30	博士(工学)	0.16	平成 5 年度					
機械工学専攻											
博士後期課程	3	5	15	博士(工学)	0.33	平成 4 年度					
社会環境デザイン工学専攻											
博士後期課程	3	5	15	博士(工学)	0.26	平成 4 年度					
大学院農学研究科 農学専攻									〔基礎学部〕 農学部 生物資源学科 応用生物化学科 生物環境科学科		
修士課程	2	20	40	修士(農学)	1.52	昭和 48 年度					
博士後期課程	3	5	15	博士(農学)	0.33	昭和 51 年度					

既設大学等の状況	大学院薬学研究科 臨床薬学専攻 修士課程	2			20	修士(薬学)		平成 15 年度	愛知県名古屋市天白区八事山 150 番地	〔基礎学部〕 薬学部 薬学科 医療薬学科
	生命薬学専攻 修士課程	2			20	修士(薬学)		平成 15 年度		平成 22 年 4 月から、 学生募集停止(臨床薬学専攻修士課程・生命薬学専攻修士課程)
	薬学専攻 博士後期課程	3	10		30	博士(薬学)	0.56	昭和 46 年度		
	大学院都市情報学研究科 都市情報学専攻 修士課程	2	8		16	修士 (都市情報学)	1.25	平成 11 年度	岐阜県可児市虹ヶ丘四丁目 3 番の 3	〔基礎学部〕 都市情報学部 都市情報学科
	博士後期課程	3	4		12	博士 (都市情報学)	0.58	平成 13 年度		
	大学院総合学術研究科 総合学術専攻 博士前期課程	2	8		16	修士(学術)	0.43	平成 14 年度		
	博士後期課程	3	4		12	博士(学術)	0.41	平成 14 年度		
大学院大学・学校づくり研究科 大学・学校づくり専攻 修士課程	2	10		20	修士 (教育経営)	0.65	平成 18 年度	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目 501 番地		
大学院法務研究科 法務専攻 専門職学位課程	3	40		140	法務博士 (専門職)	1.04	平成 16 年度		〔基礎学部〕 法学部 法学科 応用実務法学科 平成 22 年 4 月から、入 学定員減(50 40)	
既設大学等の状況	大 学 の 名 称	名城大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	法学部 法学科 応用実務法学科	4 4	360 170		1,440 680	学士(法学) 学士(法学)	1.17 1.21 1.09	平成 11 年度 平成 11 年度	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目 501 番地	平成 17 年 4 月から入学定員を 次のとおり変更し、夜間主コ ースの定員を昼間主コース に振替えた。 法学部法学科 (昼間主コース) 330 (夜間主コース) 50 30(20) 法学部法学科 360 法学部応用実務法学科 (昼間主コース) 50 (夜間主コース) 150 120 (30) 法学部応用実務法学科 170 ・減少した 50 名のうち、35 名 は平成 17 年 4 月開設の農学 部生物環境科学科へ振り替 え、残る 15 名は理工学部情 報工学科、電気電子工学科、機 械システム工学科の 3 学科へ 各 5 名を振り替えた。

既設大学等の状況	理工学部												<ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度入学試験から9学科を3つの系に区分した「系入試」を導入。各系の定員の内訳は次のとおり。 【数学系】 数学科 85 【エレクトロメカニクス系】 情報工学科 80 電気電子工学科 145 材料機能工学科 95 機械システム工学科 145 交通科学科 70 【情報デザイン系】 情報工学科 65 交通科学科 60 建設システム工学科 130 環境創造学科 95 建築学科 135 ・平成20年度入学試験から学科別及び数学科を除く8学科をひと括りとした「系別募集」を実施。(情報工学科44人、電気電子工学科44人、材料機能工学科28人、機械システム工学科44人、交通科学科39人、建設システム工学科39人、環境創造学科28人、建築学科40人) ・系別募集は、1年次では、学科別の配属がないため、系単位で算出した。 	
	農学部					1.21							<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年4月から入学定員を次のとおり変更。 農学部生物資源学科 130 100(30) 応用生物化学科 135 100(35) ・平成17年4月から既設2学科の65名と法学部法学科夜間主コースから20名、応用実務法学科から15名を振り替え、農学部生物環境科学科(100)を設置 	
	生物資源学科	4	100		400	学士(農学)	1.20	平成11年度						
	応用生物化学科	4	100		400	学士(農学)	1.23	平成11年度	愛知県名古屋市天白区塩釜					
	生物環境科学科	4	100		400	学士(農学)	1.21	平成17年度	口一丁目501番地					
	薬学部													<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年4月から薬剤師養成のための薬学教育6年制への移行に伴い入学定員を次のとおり変更。 薬学部医療薬学科 125名(収容定員500名)薬学科125名(収容定員500名) 薬学部薬学科(6年制)250名(収容定員1,500名)
	薬学科(6年制)	6	250		1,250	学士(薬学)	1.08	平成18年度		愛知県名古屋市天白区八事山150番地				
	薬学部													
	医療薬学科(4年制)	4				学士(薬学)		平成8年度						
	薬学科(4年制)	4				学士(薬学)		平成8年度						
都市情報学部														
都市情報学科	4	200		800	学士(都市情報学)	1.08	平成7年度		岐阜県可児市虹ヶ丘四丁目3番の3					
人間学部														
人間学科	4	200		800	学士(人間学)	1.19	平成15年度		愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地					
附属施設の概要	該当なし													

学校法人名城大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成22年度	入学定員		平成23年度	入学定員	変更事由
名城大学					
法学部 法学科	360		法学部 法学科	360	
応用実務法学科	170	→	応用実務法学科	170	
経営学部 経営学科	195		経営学部 経営学科	195	
国際経営学科	90		国際経営学科	90	
経済学部 経済学科	185		経済学部 経済学科	185	
産業社会学科	100		産業社会学科	100	
理工学部 数学科	85		理工学部 数学科	85	
情報工学科	145		情報工学科	145	
電気電子工学科	145		電気電子工学科	145	
材料機能工学科	95		材料機能工学科	95	
機械システム工学科	145		機械システム工学科	145	
交通科学科	130		交通機械工学科	130	名称変更
建設システム工学科	130		建設システム工学科	130	
環境創造学科	95		環境創造学科	95	
建築学科	135		建築学科	135	
農学部 生物資源学科	100		農学部 生物資源学科	100	
応用生物化学科	100		応用生物化学科	100	
生物環境科学科	100		生物環境科学科	100	
薬学部 薬学科(6年制)	250		薬学部 薬学科(6年制)	250	
都市情報学部 都市情報学科	200		都市情報学部 都市情報学科	200	
人間学部 人間学科	200		人間学部 人間学科	200	
名城大学大学院					
法学研究科 法律学専攻(M)	15		法学研究科 法律学専攻(M)	15	
法律学専攻(D)	8	→	法律学専攻(D)	8	
経営学研究科 経営学専攻(M)	30		経営学研究科 経営学専攻(M)	30	
経営学専攻(D)	3		経営学専攻(D)	3	
経済学研究科 経済学専攻(M)	10		経済学研究科 経済学専攻(M)	10	
経済学専攻(D)	3		経済学専攻(D)	3	
理工学研究科 数学専攻(M)	8		理工学研究科 数学専攻(M)	8	
数学専攻(D)	2		数学専攻(D)	2	
情報工学専攻(M)	30		情報工学専攻(M)	30	
電気電子工学専攻(M)	20		電気電子工学専攻(M)	20	
材料機能工学専攻(M)	30		材料機能工学専攻(M)	30	
機械システム工学専攻(M)	20		機械システム工学専攻(M)	20	
交通科学専攻(M)	16		交通科学専攻(M)	16	
建設システム工学専攻(M)	20		建設システム工学専攻(M)	20	
環境創造学専攻(M)	10		環境創造学専攻(M)	10	
建築学専攻(M)	16		建築学専攻(M)	16	
電気電子・情報・材料工学専攻(D)	10		電気電子・情報・材料工学専攻(D)	10	
機械工学専攻(D)	5		機械工学専攻(D)	5	
社会環境デザイン工学専攻(D)	5		社会環境デザイン工学専攻(D)	5	
農学研究科 農学専攻(M)	20		農学研究科 農学専攻(M)	20	
農学専攻(D)	5		農学専攻(D)	5	
薬学研究科 薬学専攻(D)	10		薬学研究科 薬学専攻(D)	10	
都市情報学研究科 都市情報学専攻(M)	8		都市情報学研究科 都市情報学専攻(M)	8	
都市情報学専攻(D)	4		都市情報学専攻(D)	4	
総合学術研究科 総合学術専攻(M)	8		総合学術研究科 総合学術専攻(M)	8	
総合学術専攻(D)	4		総合学術専攻(D)	4	
		→	人間学研究科 人間学専攻(M)	8	研究科の設置 (認可申請)
大学・学校づくり研究科	10		大学・学校づくり研究科	10	
大学・学校づくり専攻(M)	10		大学・学校づくり専攻(M)	10	
法務研究科 法務専攻(P)	40		法務研究科 法務専攻(P)	40	

教育課程等の概要

(大学院 人間学研究科 人間学専攻(修士課程))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	人間学特別演習	1 前	2						3						オムニバス
	コミュニケーション特別演習	1 後	2						2	1					
	小計(2科目)	-	4	0	0				3	1	0	0	0	兼0	
専門科目	教育基盤開発学特論	1 前		2					1						
	臨床教育心理学特論	1・2 後		2						1					
	教育人間行動学特論	1・2 後		2					1						
	社会心理学特論	1・2 前		2										兼1	
	人間形成基軸論特論	1 前		2					1						
	ジェンダー社会学特論	1・2 後		2					1						
	家族関係社会学特論	1・2 前		2						1					
	人間社会システム特論	1 前		2										兼1	
	社会コミュニケーション特論	1・2 前		2										兼1	
	公共性と現代社会特論	1・2 後		2										兼1	
	都市文化環境学特論	1・2 後		2					1						
	歴史社会論特論	1・2 後		2					1	1					オムニバス
	言語コミュニケーション特論	1 前		2					1						
	英米文学特論	1・2 前		2					1					兼1	オムニバス
	英語学特論	1 前		2					1						
	言語学特論	1・2 後		2										兼1	
	多文化共生特論	1・2 後		2					1						
小計(17科目)	-		0	34	0				10	3	0	0	0	兼5	
関連科目	学外語学研修	1・2 後		2					2						集中
	教育社会調査	1・2 前		2					1	1					集中
	発達心理学演習	1・2 後		2					1	1					
	小計(3科目)	-		0	6	0			4	2	0	0	0	兼0	
研究指導	人間学特別研究	1・2 通	8						9	3					
	小計(1科目)	-							9	3	0	0	0	兼0	
合計(23科目)			-	12	40	0			10	3	0	0	0	兼5	
学位又は称号	修士(人間学)		学位又は学科の分野			文学関係、教育学・保育学関係、社会学・社会福祉学関係									
修了要件及び履修方法								授業期間等							
〔履修方法〕 (1) 学生は、2年以上在学し、次に定める方法により、30単位以上を修得しなければならない。 (2) 授業科目の中から、必修科目12単位、選択科目18単位以上を履修しなければならない。 (3) 特別研究を担当する教員を当該学生の指導教員とし、学生は授業科目の選定、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導を受けるものとする。 (4) 修士の学位論文は、研究指導科目について提出するものとする。 〔修了要件〕 本大学院に、2年以上在学し、修了に必要な単位として、30単位以上を修得し、且つ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う修士論文審査及び試験に合格しなければならない。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要

(人間学部 人間学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 共 通 教 育 部 門	歴史と文化	1・2後		2					1						兼1
	文学と人間	1・2前		2					1						兼1
	芸術文化論	1・2後		2											兼2
	欧米文化論	1・2後		2						1					兼2
	アジア文化論	1・2後		2											兼2
	文化人類学の歴史	1・2後		2											兼1
	哲学	1・2後		2											兼2
	心の科学	1・2前		2						1					
	宗教の世界	1・2後		2											兼1
	日本国憲法	1・2前		2											兼2
	法と社会	1・2前		2											兼3
	経済と社会	1・2前		2											兼3
	経営と社会	1・2前		2											兼4
	政治と社会	1・2前		2											兼2
	国際化時代の人間と社会	1・2前		2						1					兼2
	社会学	1・2前		2											兼2
	都市と人間	1・2後		2											兼1
	ジェンダーと社会	1・2前		2						1					兼1
	人間と社会の演習	1・2前		2											兼3
	地球と宇宙	1・2前		2											兼2
	物質の成り立ち	1・2前		2											兼1
	生命の多様性	1・2前		2											兼2
	数と論理	1・2前		2											兼2
	現象と論理	1・2		2											兼1
	人間と環境	1・2前		2											兼6
	英語基礎 (リ・ディング)	1前		1											兼2
	英語基礎 (コミュニケーション)	1前		1											兼3
	英語基礎 (リーディング)	1後		1											兼2
	英語基礎 (コミュニケーション)	1後		1											兼3
	英語初級 - (リーディング)	1・2前		1						1					兼6
	英語初級 - (コミュニケーション)	1・2前		1							1				兼5
	英語初級 - (リーディング)	1・2後		1						1					兼6
	英語初級 - (コミュニケーション)	1・2後		1							1				兼5
	英語初級 - (リーディング)	1・2前		1											兼4
	英語初級 - (コミュニケーション)	1・2前		1											兼4
	英語初級 - (リーディング)	1・2前		1											兼4
英語初級 - (コミュニケーション)	1・2後		1											兼4	
英語中級 (リーディング)	1・2前		1											兼1	
英語中級 (コミュニケーション)	1・2前		1											兼3	
英語中級 (リーディング)	1・2後		1											兼1	
英語中級 (コミュニケーション)	1・2後		1											兼3	
英語上級 (リーディング)	2・3前		1											兼1	
英語上級 (コミュニケーション)	2・3後		1											兼1	
英語上級 (リーディング)	2・3後		1											兼1	
英語上級 (コミュニケーション)	2・3後		1											兼1	
フランス語入門	1前		1											兼1	

	スペイン語初級	1・2・3前	1									兼1
	スペイン語初級	1・2・3後	1									兼1
	コンピュータリテラシー	1前	2									兼2
	コンピュータシステム	1前	2									兼2
	情報活用リテラシー	1前	2									兼2
	情報処理入門	1・2前	2									兼1
	プログラミング入門	1・2前	2									
	情報社会と倫理	1前	2									兼1
	健康・スポーツ科学	1前	1									兼3
	健康・スポーツ科学	1後	1									兼3
	健康・スポーツ科学	2・3・4前	1									兼6
	健康・スポーツ科学	2・3・4後	1									兼6
	健康・スポーツ科学	2・3・4後	2									
	健康科学論	2・3・4前	2									
	健康科学論	2・3・4後	2									兼11
	教養演習	1前	2									兼20
	教養演習	1・2前	2				1					兼11
	小計(102科目)	-	0	138	0	-	6	2	0	0	0	兼137
専 門 教 育 部 門	人間学総論	1前	2				6	5		2		
	心理学概論	1前	2				1					
	社会学概論	1後	2				1					
	異文化理解	1後	2				1					
	生命倫理入門	1前		2								兼1
	環境人間学	1前・後		2			1					
	データ解析入門	2前		2			1					兼1
	発達心理学	1前		2				1				
	性格心理学	1前		2								兼1
	社会心理学	1後		2			1					
	教育心理学	1前		2						1		
	生徒・進路指導論	1後		2								兼1
	認知心理学	2前		2								兼1
	臨床心理学	2後		2					1			
	対人関係の心理学	2前		2			1					
	家族心理学	2後		2								兼1
	生涯発達心理学	2後		2					1			
	福祉心理学	2前		2					1			
	学習心理学	2前		2			1					
	心理検査法	2前・後		2						1		兼1
	心理学研究法	2後		2			1					
	心理データ解析	2後		2			1					
	心理学演習	2前・後		2					1		1	兼2
	心理学演習	3前・後		2			2	1				兼2
	学校教育相談	3前		2					1			
	カウンセリング論	3後		2								
	臨床社会心理学	3後		2								
	産業心理学	3前		2								兼1
	アイデンティティの心理学	3前		2								兼1
	発達臨床心理学	3後		2					1			
	教育学概論	1前		2			1					
	人材育成学	1後		2			1					
現代社会論	1前		2					1				
家族社会学	1後		2					1				
地域文化論	1後		2			1						
学習社会論	2前		2								兼1	
学校教育論	2前		2								兼1	

専 門 教 養 部 門	教育行政論	2後	2									兼1		
	教育社会学	2後	2				1							
	社会福祉論	2後	2									兼1		
	環境社会学	2後	2									兼1		
	日本文化史	2前	2				1							
	都市文明史	3前・後	2				1							
	政治学	2後	2						1					
	ジャーナリズム論	2前	2										兼1	
	道德教育論	2後	2				1							
	教育史	3前	2				1							
	地域教育論	3後	2										兼1	
	ジェンダー論	3前	2				1							
	人口社会学	3前	2						1					
	日本社会史	3前	2				1							
	西欧文化史	2後	2				1	1						
	現代メディア論	3前	2										兼1	
	コミュニケーション論	1前	2				1							
	言語文化論	1前	2				1							
	国際文化論	1前	2				1							
	国際関係論	1後	2						1					
	国際コミュニケーション	1後	2										兼1	
	英米文学概論	2前	2				1							
	ビジネス・コミュニケーション	2前	2										兼1	
	プレゼンテーション	2後	2				1							
	国際協力論	2前	2						1					
	地域研究A	2後	2				1							
	地域研究B	2前	2						1					
	地域研究C	2後	2						1					
	インテンシブ・イングリッシュ	2前・後	2				3						兼2	
	パラグラフ・ライティング	2前	2				1			1			兼1	
	英語学	2前	2				1							
	文化表現論	3前	2							1				
	異文化コミュニケーション	2前・後	2				1							
	比較文化論	3後	2				1							
	比較言語論	3後	2				1							
	国際組織論	3前	2						1					
	多文化社会論	3後	2				1							
	社会言語学	3後	2				1							
	エッセイ・ライティング	3後	2							1			兼1	
	英米文学研究	3後	2				1							
	特殊講義	1・2・3・4	2				1							
	海外研修	2後	4				1							集中
語学研修	1・2・3・4前	2							1			兼1	集中	
フィールドワーク入門	1前	2												
フィールドワーク	2前	2				5	2						集中	
ボランティア入門	1後	2										兼1		
ボランティア	3後	2				1							集中	
インターンシップ	3後	2						1					集中	
特別演習	2前	2												
基礎ゼミナール	1前	2				11	5		2					
基幹ゼミナール	3前・後	2				12	5		2					
卒業研究ゼミナール	4通	4				12	5		2					
小計(89科目)	-	16	166	0	-	12	5	0	2	0		兼21		
合計(191科目)	-	16	304	0	-	12	5	0	2	0		兼158		

学位又は称号	学士（人間学）	学位又は学科の分野	文学関係、教育学関係、社会学関係	
卒業要件及び履修方法		授業期間等		
必修科目の専門教育部門16単位、選択科目の全学共通教育部門32単位以上、同科目の専門教育部門76単位以上の計124単位以上を修得すること。		1学年の学期区分	2期	
		1学期の授業期間	15週	
		1時限の授業時間	90分	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間学研究科 人間学専攻(修士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	人間学特別演習	<p>本演習では、人間学研究科を構成する 心理 社会・教育 国際・コミュニケーション の三分野が共通して直面している現代社会の具体的な問題を取り上げ、それに対して、各分野それぞれ独自の視点からアプローチを試みると同時に、それら相互の深い関連性を具体的に体験・理解することを通じて、当該課題に対する総合的な問題解決の可能性を探求する。授業の進め方としては、各分野のテーマに即した演習を順次行った上で、最後に、それらを総合した研究にも取り組み、その成果の発表・検討も行う。こうした過程を通じて、各分野の基本的な研究法の習得はもとより、特に人間学研究に不可欠な総合的・学際的な視野と手法を身につけることが、本演習の狙いである。</p> <p>共通テーマとしては、今日、多くの地域社会で重要な課題となっている定住外国人との共生という課題を取り上げ、三つの分野それぞれが、以下のような独自のテーマに即した演習をオムニバス形式で行うとともに、授業期間の最後では、その成果を総合した発展的な研究成果の検討をする。</p> <p><オムニバス方式/全15回></p> <p>(4 岡戸 浩子/全4回)</p> <p>人間の共生に関する基本的概念および理論について学ぶとともに、地域社会と在住外国人をめぐる現状とその動向について主として言語文化とコミュニケーションの視点から考究する。</p> <p>(9 宮嶋 秀光/全4回)</p> <p>定住外国人の子女に対する学校内外における学習支援、およびその不可欠な前提となる日本語教育の現状と課題を検討する。</p> <p>(1 伊藤 康児/全4回)</p> <p>民族や文化が異なるメンバーにより編成されたグループが協同作業することで、メンバー相互の認知と行動がどう変化するのか、心理学の研究成果をもとに考察する。</p> <p>(1 伊藤康児・4 岡戸浩子・9 宮嶋秀光/全3回)</p> <p>各分野の演習の成果を踏まえ、受講生各自がそれぞれ独自の総合的な視点から取り組んだ研究成果の検討を行う。</p>	オムニバス 方式

授 業 科 目 の 概 要			
(人間学研究科 人間学専攻(修士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共 通 科 目	コミュニケーション特別演習	現代社会において真正のコミュニケーションが強く求められる場面での実体験を通して、コミュニケーション能力に支えられた実践力の向上と「心理」「教育・社会」「国際・コミュニケーション」の三分野共通で応用できる人を対象とする基礎的な研究方法の習得を目的とする。事前指導では、現代社会の現状と課題に関する講義を通してコミュニケーション能力、論理的思考、問題分析能力の重要性をより深く認識し、基礎的な研究方法を学んだ上で、調査先の選定と調査の事前準備を行う。調査先では、教員からの指導を受けながら現地の経験的・実証的把握を行い、現状と課題の分析を進め、その過程で利害や立場の異なる人々とのコミュニケーションを深める。事後指導では、調査先の現状と課題を踏まえ、利害や立場の統合調整に向けた提案をまとめ、調査報告会での報告、調査報告書の作成を行う。	
専 門 科 目	教育基盤開発学特論	本講義では、人間の理解を目指し、人の知的情報処理過程の特徴を学ぶとともに、そのような情報処理過程を解明する研究方法について理解する。具体的な講義内容としては、知覚、記憶、思考といった人間の認知過程について概観する。さらに、人間の認知機能が日常生活のなかでどのように働いているのかを解明しようとする、近年の認知心理学の動向を踏まえて、日常認知の問題にも触れる。人間科学の方法を具体的に理解するために、それぞれの分野の代表的な研究を取り上げて講読する。こういった講義内容を通じて、受講生の知的な学習の基盤となる記憶の働きを中心とした認知過程について理解を深め、その後の学習の基盤を作り上げる。	
	臨床教育心理学特論	子どもたちの問題が年々深刻化して社会問題となり、家庭や地域の子育て機能が低下したと言われる中で、児童・生徒との触れ合いを重視し、問題行動の背景を理解する力を備えた教師の存在がますます期待されるようになってきた。本講義では、児童・生徒の心の問題を把握し、健康の回復と適応を促す学校教育相談の活動に重点を置いて、児童・生徒に特徴的な臨床心理学の諸問題を考察し、併せて健康心理学的な視点から効果的な予防教育を探求する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間学研究科 人間学専攻(修士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	教育人間行動学 特論	教育の場における人間の心理や行動のあり方は、古くから、そして現代においても重要な教育上の論点である。本講義では学校教育、および家庭教育、地域における教育といったさまざまな教育の場のなかで展開する指導者の学習指導、および学習者の学習の過程に関する重要な理論と実践を取り上げて論じるとともに、学生の体験した教授・学習を具体的な題材としながら考察を深める。教員の講義につづき、受講生の体験した教授・学習過程の発表、ビデオ教材の視聴を題材とした討議を行う。また、学校、家庭、地域における教育の方法に関して現状分析と課題の提起、および解決の提案をゴールとした学生参加型授業を行う。	
	社会心理学特論	良好な対人関係を持つことは、精神的な健康だけでなく、身体的な健康にとっても有用である。どのような対人関係を持つのかも「社会」(価値観、他者の目、損得など)の影響を受ける。そこで、本講義では、主として友人関係を通してこれらの影響を考えると同時に、理想的な友人関係の有り様について考えていく。一方的な講義だけでなく、課題を与えて、それについての発表に際して議論を行う。	
	人間形成基軸論 特論	本格的な生涯学習社会の到来を前に、人間形成は家庭や学校に限られず、社会のあらゆる領域の課題になりつつある。本講義は、このような人間形成の多様な課題領域において、今日でも重要な役割を果たしている発達観、目標観、方法観などを再検討する。これらの教育の思想や哲学を正確に理解することを基本とするが、同時に、受講者自身が、それらを今日的な課題と照らし合わせ、その有効性や限界を主体的・批判的に検討することも重視し、それによって、これからの人間形成を支える新しい着想へと通じうる素養の形成もめざしたい。	
	ジェンダー社会 学特論	本講義では、フェミニズム理論とジェンダー研究の展開過程を把握し、現代社会におけるジェンダー問題を社会構造との関わりで探究する。とくに文化伝達の間としての家族、教育に焦点を当てながら、ジェンダーの再生産と変容のメカニズムを理論的・実証的に検討し、隠れた不平等の再生産の理解・分析を深める。また、ジェンダーとエスニシティの交差など、社会における複合的な権力構造と性支配、ジェンダー秩序への視座を培い、グローバル化時代の市民社会とジェンダーの課題を明らかにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間学研究科 人間学専攻(修士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	家族関係社会学 特論	<p>少子・高齢となった社会構造は、核家族における子どもの数の減少、高齢者世帯の増加など核家族の内情を変化させている。また、離婚率、再婚率、未婚率の上昇も結婚観・家族観を変化させ、「個人化」、「多様化」などといった言葉が現代家族を特徴づけている。そうした中で家族関係も変化し、家族に関する様々な問題がクローズアップされるようになってきた。それ故、本講義では、こうした変動する社会と価値観の変容にゆらぐ「家族」を、近代家族の成立から現代家族に至る段階での特徴的な文献を読むことにより、家族関係の変化を把握する。同時に、家族関係について英文で書かれた文献も取り入れ、家族の概念を幅広く理解する。講義は週ごとに指定された文献をもとに、歴史的・社会的背景を考えながら、家族関係を理論的に分析し、議論する。</p>	
	人間社会システム 特論	<p>グローバル化時代の社会システムとその変容を社会学の理論をふまえて検討する。社会システム論の展開過程を整理し、現代社会における社会・文化システムの構成要件を多面的に分析する。とくにグローバル化にともなう社会・文化システムの再生産メカニズムとその変容に焦点をあて、近代以降の人間の生活・文化・教育空間の変化、文化葛藤、グローバル化とアイデンティティ、共生社会の課題等についての考察と理解を深める。</p>	
	社会コミュニケーション 特論	<p>本授業では、社会学的視点からコミュニケーションの理論的考察と、現代社会におけるコミュニケーションの課題を理解する。さらに、相互作用アプローチ、コミュニケーション行為の理論等の理解をふまえ、とくに現代日本の地域的コミュニケーションの営為に焦点を当てながら、地域コミュニティにおける相互理解、ネットワーク、情報伝達の実態を知るとともに、生活世界の疎外と新しい生活圏・公共圏の構築などの現代的課題を学ぶ。</p>	
	公共性と現代社会 特論	<p>公共性概念の展開過程をたどりながら、現代社会における公共性の多様性、重層性を社会変動とのかかわりで理解する。とくに「新しい公共性」論の創出にかかわる歴史的経緯をふまえ、国家的公共性からグローバルな公共性、市民的公共性、地域的公共性へと多様な公共性へ分化してゆく背景要因について学びを深める。また、日本については、公共性の意味転換、公共政策、地域的公共性の主体について、具体的事例に即して論議し、地域的公共性の実践的営為の分析を深める。以上の検討を通して、グローバル化時代の公共性の現代的課題の全体像を知る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間学研究科 人間学専攻(修士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	都市文化環境学 特論	都市や人間居住環境の質的向上を原則的理念として、景観を含む環境や社会基盤の整備や改善を実現するため、都市や地域における人間活動が地球環境や都市空間、地域文化の変容に与える影響について、交通・ライフスタイル・デザイン・歴史・産業などの観点から論じ、現在の都市の課題や問題を理解するとともに、それらを解決するための新しい都市・地域計画、環境技術について探求する。	
	歴史社会論特論	<p>中世の日本ならびに西欧では、それぞれ独自にひとつの社会システムとしての封建社会が生成・展開した。本講義では、日本と西欧の封建社会の形成・変容過程や構造的特徴などについて、最近の研究成果をふまえて両者を比較検討し、新たな封建社会論の構築を試みる。</p> <p>講義はオムニバス方式で実施する。西欧7回・日本7回の講義を行ったのち、最終回には総括討論を行って理解を深める。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (13 西村 善矢/全7回) 西欧部門担当</p> <p>封建制概念をめぐる諸問題、および封建制度に関する学説史をふまえながら、中世西欧社会に生じたとされる定住や農業構造の変動、社会組織の構造化、そして政治秩序の変遷などについて検討を加える。</p> <p>(2 伊藤 俊一/全7回) 日本部門担当</p> <p>ヨーロッパで生まれた封建制概念を日本史へ導入したことの経緯と問題点を指摘した上で、古代から中世への農村社会の転換、日本中世に独特な「職」を対象とした知行形態、都鄙間の支配関係、公家と武家が並立した意味について検討する。</p> <p>(13 西村善矢、2 伊藤 俊一/1回)</p> <p>西欧封建社会と日本封建社会をめぐる総括討論を行い、両者の共通点と相違点についての理解と考察を深める。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(人間学研究科 人間学専攻(修士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	言語コミュニケーション特論	移民や移住者の増加という現代的な環境の中、言語と直結した問題として出現してくるコミュニケーションの問題について理解を深める。特に主眼とするのは、英語というLingua Franca(リンガ・フランカ=共通言語)を用いながらも多種多様な文化背景を持つ人々が、どのように自文化の影響を受けるのかを、文化的価値観、会話の展開構造、ターン・テイキング、不同意や対立の発話行為といった、会話スタイルの視点から検証を重ねる。コミュニケーション不全が起きている具体例、それが引き起こされる要因を理解し、日本語話者の会話スタイルも意識しながら、異文化間コミュニケーションに潜む問題点を分析する概念や、手法を学び身につける。実際に海外のフィールドでELF(English as a Lingua Franca: 共通言語としての英語)を体験し、自らデータ収集をすることも視野に置く。	
	英米文学特論	<p>本講義は、現実世界に生きる人間の精神のありようを内包する表象テキストである文学作品を精密に分析し、アメリカ独立戦争を分水嶺とする18世紀から20世紀にいたる英米における西欧的知の変遷について立体的見取り図を提示することを目的とする。また、併せて、英米文化の基盤をなす思考の準拠枠についても考察する。</p> <p>講義はオムニバス形式であるが、1回の総括討論を組み合わせ、英米文学に関する理解を深める。</p> <p><オムニバス方式/全15回></p> <p>(3 一ノ谷清美/全7回)イギリス部門担当 文学と社会との関連に注目して、イギリス近代市民意識とその言語表象を検討する。</p> <p>(17 神尾美津雄/全7回)アメリカ部門担当 一ノ谷によるイギリス近代市民意識の検討を受けて、神尾は、イギリスの精神意識を因果とするその後のアメリカにおける時代の精神文化の基盤について検討する。</p> <p>(3 一ノ谷 清美、17 神尾 美津雄/1回) 英米総括討論を行い、英米的知の総合的理解をはかる。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(人間学研究科 人間学専攻(修士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	英語学特論	言語の使用と話者の意図の観点から言語を研究する語用論について、言語学史における台頭と発展を含め、その理論的位置づけを把握する。語用論的概念を理解したうえで、言語の意味が、聞き手と話し手の相互交渉の中で構築される過程をテレビやラジオ、小説、会話などの周りにおける実際の英語のデータを使いながら分析する。またインターネット上に出現している新たな言語使用についても学びを深める。	
	言語学特論	言語研究に関する諸理論を歴史的に鳥瞰した後、世界の言語に見られる普遍的及び相対的特徴を通時的及び共時的に分析し、言語の背後にあると考えられる思考の溝や精神の構造について洞察を深める。 併せて英語と日本語の表現構造と発想にも目を向け、個々の発話行為や文学表現に具象化する話者の言語意識の階層性を越境的コミュニケーションの視座から考察する。	
	多文化共生特論	グローバル化に伴い増大する国際的な人口移動により、既存の国民国家においては一層の多文化・多言語化がみられる。本講義では、海外諸国と日本における多文化政策および言語政策・言語教育政策の現状分析を通して問題点を把握し、異文化を背景に持つ人々との共生への実践的な手法を検討する。また、人々の言語意識や異文化コミュニケーションのあり方についても考察する。講義を主としながらもPBL方式による討議を組み合わせることで多文化共生の問題点について検証するとともに課題への理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間学研究科 人間学専攻(修士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関 連 科 目	学外語学研修	外国語(主に英語)の運用能力を高めるためにイマージョン環境で一定期間研修を行う。同時に現地で使用される多数派言語と移住者・移民らが使用する少数派言語、また家庭内言語と公用言語といった現地での複雑な言語事情を体験し、現代世界が直面しているグローバル・コミュニケーションの問題について理解を深める。また自らが研修を受けている語学教育機関も含めて、各国の語学教育体制や政策などを研究し、修士論文研究を見据えた情報およびデータの収集を行う。	
	教育社会調査	教育実践と社会生活がまさに行われているフィールドにおいて実地見学、聞き取り調査、アンケート調査などを行い、教育学・社会学の視点から人間の実際のあり方を探究する。事前授業で教育学・社会学分野における研究課題と調査方法を吟味して調査に臨み、調査後は結果を取りまとめ、理論面の理解の深化を図る。	
	発達心理学演習	心理発達、すなわち年齢を重ねるなかでの人間心理の継時的変化に関する理論を学ぶ。発達心理学に係る文献の購読、および日々の生活の実際のなかで年齢の異なる人間を対象に調査または観察を行い、受講生の自発性・実践性を重視した学習を積み重ねて、心理発達に関する理論の深い理解を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間学研究科 人間学専攻(修士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	人間学特別研究	<p>修士論文のための研究指導を行う。学生が必修科目、特論科目及び実践を重視する科目の履修を通じて深めてきた人間に関する問題意識を具体的な課題へと焦点化し、適切な研究方法により得られた根拠と論理により探究した成果を修士論文にまとめ、公開の場で発表できるまでの一連の過程を指導する。</p> <p>(1 伊藤 康児) 人間の教授・学習、および発達をめぐる心理学の先端的な研究課題を探究し、アンケート調査、面接調査、心理検査、ないしは心理学実験を通じて得たデータを根拠に研究指導を行う。</p> <p>(2 伊藤 俊一) 日本史学の領域を中心に、文化財保存・町づくり・異文化交流などの応用分野も視野に入れつつ、先行研究の検討、原史料の収集と分析、現地踏査や聞き取り等によって研究を進める。</p> <p>(4 岡戸 浩子) グローバル社会におけるコミュニケーションに関する現代的な諸問題を、諸理論と実践からの分析を通して、価値観の多様性や多文化・多言語主義などの視点から考察し、多文化共生のあり方を探究する。</p> <p>(5 神谷 俊次) 人間の心に関する諸問題に対して認知心理学的研究手法を用いて解明する場合の研究過程全般を指導する。とくに、仮説検証型の心理学的研究を遂行する際の仮説の設定、研究方法の選択、データの分析方法の理解に力点を置く。</p> <p>(6 天童 睦子) 現代社会とジェンダーにかかわる人間学的研究を行い、ジェンダー研究の理論的展開の把握、育児・教育問題のジェンダー分析など、履修者の問題設定をふまえた研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間学研究科 人間学専攻(修士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	人間学特別研究	(7 船田 秀佳) 国際語としての英語の歴史を言語文化論的に考察した後、その言語的特徴を、音韻論、統語論、意味論、語用論の観点から分析し、英語話者の言語意識の根底にある発想と論理の階層構造が、いかなる過程を経て個別の表現に変形されていくのかを、認知言語学の視点から考究する。	
		(8 水尾 衣里) 都市や人間居住環境の質的向上を原則的理念として、歴史・文化、及び景観を含む都市環境保全及び形成、また地球環境問題といわれるエネルギーに関わる環境の改善を実現するための方策等を、既存研究の検討と実際の取り組み事例などのフィールド調査から導く。	
		(9 宮嶋 秀光) 現代の具体的な教育問題を念頭に置いて、人間形成に関わる特定の思想ないし理論を取りあげ、原典に即した正確な分析と解釈、および先行諸研究の検討を通じて、その現代的な意義を明らかにする。	
		(10 村田 泰美) コミュニケーション・スタイルを中心的テーマとし、会話分析やクリティカル・ディスコース・アナリシスの接近法で分析する。スタイルに影響を与える価値観や思考法を民族誌的語用論(エスノ・プラグマティックス)の理論を基に解明を試みる。	
		(11 安藤 喜代美) 家族の絆が重要視される反面、DV や虐待という家族間における人間関係の歪みが問題視される現代社会の問題を理論的に体系付け、社会調査という手法でその実態を検証する。	
		(12 塩崎 万里) 臨床教育心理学特論で学んだことを踏まえ、人間が成長の過程で遭遇する心理的問題に焦点を当てて、その背景となる要因、対処方法、予防方法やその効果に関わるテーマを選択し、実証的に探求する。	
		(13 西村 善矢) 西洋史学の分野に関わる諸問題について、景観・環境保全や異文化理解などの現代的課題も考慮に入れながら、邦語・欧語の先行研究を検討するとともに、史料・考古学資料の収集と分析により研究を行う。	